



## 優秀賞



## 朝霞市シンボルロード 緑の都市軸創生のための樹林保全活用調査・計画

## 株式会社グラック

北川明介・高橋 彩・田丸真菜（元社員）

本プロジェクトの対象となった「朝霞市シンボルロード」は“米軍基地 キャンプ朝霞（CAMP DRAC）北地区”跡地に計画されている基地跡地公園の東側を南北に走る「公園通り」に沿った幅30mの帯状のエリアです。

シンボルロードは市庁舎前緑地・ケヤキの丘を起点として、南端の南口広場までの延長約800mに及ぶ広幅員の緑地帯の

中に、既存樹林を抜ける歩道空間（幅員3.6m）と市役所前広場、北口広場、中央広場そして南端の南口広場の4つの広場が計画されました。

本プロジェクトでは、敷地に残る現況樹林を最大限に生かした計画とするため、緻密な現況調査と分析に基づく、既存樹林の保全計画を提案しました。

## 提案1 現況植生調査・分析に基づく樹林保全活用計画

樹林全体は落葉広葉樹で構成されていましたが、詳細な調査と分析により、草地主体の植生から高密度な樹林までの密度の違いの他、樹種、樹高の違う多様な樹林の姿が浮かび上がって

## 作品概要

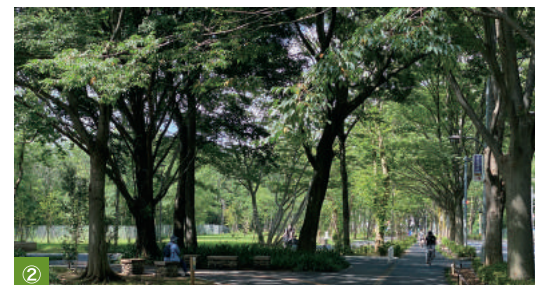
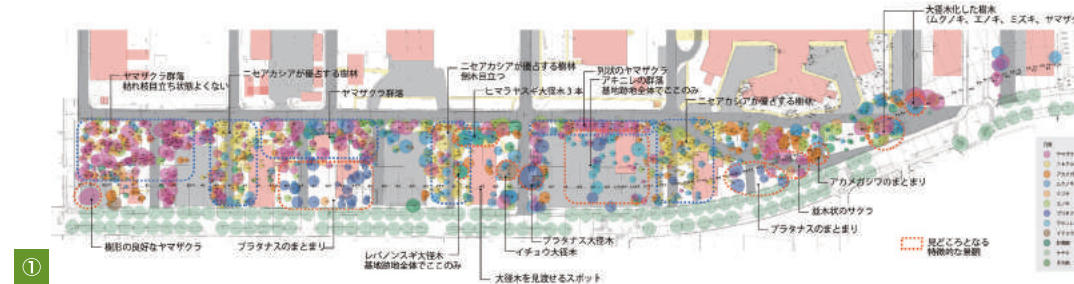
作品名—— 朝霞市シンボルロード  
緑の都市軸創生のための樹林保全活用調査・計画  
所在地—— 埼玉県朝霞市大字膝折他地内  
発注—— 朝霞市  
事業目的—— 米軍基地跡地の内、約2.4haの帯状の緑地帯を対象に、「樹林地を生かしながら、学び、遊び、交流する場」となる緑の都市軸をつくり出すこと  
事業期間—— 2017年10月～2018年6月  
事業規模—— 2.4ha(800m)

## 作品評

2.4haの敷地に広がる樹林地の現地調査と分析を行って、既存樹林・特性を保存活用した緑の都市軸となる森づくりに取り組んだ。「ゆっくりと歩ける歩行空間、大小さまざまなイベントを開催できる広場、くつろげる緑陰」をコンセプトにして、保存伐採計画を立案して、街の骨格となる緑のデザインを提案した。

同時に、市民参加による「シンボルロードの管理運営を考える会議」の運営・支援を行っている。地道な調査と分析、保存・景観・利用の総合的な検討に基づいた提案は、市民・自治体担当者にとって、説得力のある的確な情報となったであろう。事業推進に大いに貢献している。

基本計画段階での、「使いながらつくる、つくりながら考える」という考え方を貫いている。樹木は数百年の寿命を持つ生きものである、「すべてをつくり込む設計とせず」という控えめな態度に好感が持てる。願わくは、成果品を提出したらこれで終わりということではなく、これからも長く関わって、樹林・樹木の行く末を見守っていくことを期待したい。



①現況樹林樹種構成図 ②③基地時代の面影を残した緑の道の景  
④既存樹を活かした中央広場のデザイン ⑤既存樹（ヤマザクラ）を際立たせ場所性を強調した南口広場

きました。こうした現況樹林の特性把握、分析に加え、シンボルロードの空間整備計画に反映できるように、見どころとなる景観をつくり出している樹木や大径木を抽出し、既存樹林の保全活用計画を提案しました。

## 提案2 街の骨格となる緑の保全活用計画

シンボルロード整備区域内には、プラタナスやイチョウなど巨木化した樹木、ヤマザクラの大木など、巨木・大木が多く見られたため、緑の骨格形成を目指し基地時代の面影を残す巨木・大木の保全活用を第一優先とした整備計画を進めました。

## 提案3 緑の基盤整備計画

安全と次世代継承を目標とした既存樹林整備をめざし、以下の基盤整備計画を提案しました。

## 【外来樹種の選択的伐採】

基地返還後の長い時間経過の中で、樹林内はニセアカシアなどの外来樹種が広がりがつあったため、地域本来の森の育成を目指し、外来樹種の選択的除伐計画をたてました。

## 【森の土壌基盤整備計画】

現況植生基盤について調査分析し、これに基づいた伐採、舗装版撤去、堆積腐葉土の保全など森の基盤整備計画を立案しました。